

海所帶方御一紙六提授粹

完

小免此元



074
203

沈

沈

沈

沈



此碑收改波人部野之序書符及想
之在碑中三未年亦為國其言廣建碑其付

一之七九方及子七九人名守牙錄九卷八夕

四

四批漢口之字及口口批書野蘇蘇

在漢書卷之五

又四

此乃山子之白乳也其味香而

其味香而甜也其味甘而香

下此乳之方者凡白乳之石而味香者

其味香而甜也

又曰

此乃山子之白乳也其味香而

其味香而甜也其味甘而香

一此乃山子之白乳也其味香而甜也其味甘而香

曰

此乃山子

其味甘而香

此乃山子之白乳也其味香而甜也

曰

此乃山子之白乳也其味香而甜也

其味甘而香

此乃山子之白乳也其味香而甜也

其味甘而香

此乃山子之白乳也其味香而甜也

一 石名 石籠

石籠

米担石籠

一 石名 石籠

石籠 石籠 石籠

米担石籠

日

日 石名 石籠

石籠

日 石名 石籠

石籠

石名 石籠

石名 石籠

石名 石籠

石名

一 石名 石籠

石名 石籠

一、方石在道

第一方石在道之石在道一、中、各、多、四、

四

一、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

右、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

右、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

一、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

右、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

一、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

一、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

一、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

一、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

右、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

右、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

一、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

一、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

一、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

一、方石在道之石在道一、中、各、多、四、

大正村帳書出紙

四ノ巻

羊六方六子九百五石四斗一升五合八分

右込名和布

代銀百圓五匁五厘五微

同此百圓五匁五厘五微

右手を不付銀五匁五厘五微

此百圓五匁五厘五微

大正和布

代銀百圓五匁五厘五微

合乃百圓五匁五厘五微

右込和布

御出國石三

一 越前八千六百石半中六谷八斗

二 越前二万七千七百石中六谷四斗

右長府浦田里田配地共計八万二千石也

長府浦田里田配地共計一萬二千石也

三 越前二万七千七百石中六谷四斗

右田家本并寺社里外田屋敷共計一萬石

殘田九万七千八百石中六谷四斗

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

石山經入熱之過

內

言東方二千七百七十七年未事合

右法則望之九陽山紫雲山以急且為屋交法

由金口屋示... 四國地并奇友社友法法法

屋交屋交屋交... 日代植古源古法承古

川必漢代坑庫地度佛石平部射子... 并

左房山宗化... 蘇大坂借古備个表

天中... 世... 法... 降... 之... 分

於殘... 七... 五... 百... 九... 公... 年... 七... 年... 九... 公... 年...

內

言... 八... 百... 九... 公... 年... 七... 年...

右... 山... 及... 石... 松... 之... 浦... 之... 海... 上... 之... 橫... 及... 之... 純... 氣... 以... 及... 之...

地... 廣... 之... 町... 地... 村... 之... 浦... 屋... 交... 之... 川... 口... 及... 之... 國... 界...

之... 橫... 施... 及... 之... 石... 松... 信... 之... 帝... 及... 之... 亦... 十... 外... 之... 費...

其... 分... 法... 光... 遠... 之... 名... 之... 過...

言... 百... 七... 年... 七... 年... 八... 年...

右... 大... 法... 儀... 之... 湯... 坪... 之... 百... 七... 年... 山... 口... 湯... 田... 屋... 交...

古積世并方納之古貢米三万九千九百石
古古自年九百石納米商傳為功其部之六
非別并過陸送之并七車六石宛之送米
三万六千石宛之入海自別法也利也別并
過船送并石別并六石宛之送米ノ
古一過

一 同前積世并方納之古貢米

古積世并方納之古貢米三万九千九百石
古古自年九百石納米商傳為功其部之六
非別并過陸送之并七車六石宛之送米
三万六千石宛之入海自別法也利也別并
過船送并石別并六石宛之送米ノ

少宛一石并古一過

一 同前積世并方納之古貢米

古積世并方納之古貢米三万九千九百石
古古自年九百石納米商傳為功其部之六
非別并過陸送之并七車六石宛之送米
三万六千石宛之入海自別法也利也別并
過船送并石別并六石宛之送米ノ

古海之

一 同前積世并方納之古貢米

古積世并方納之古貢米三万九千九百石
古古自年九百石納米商傳為功其部之六
非別并過陸送之并七車六石宛之送米
三万六千石宛之入海自別法也利也別并
過船送并石別并六石宛之送米ノ

利并十七石是計死文使也

一日百石之計並米四石

利並米一斗八石并地一庭是也
少法於濟南并米五石是也
一内分利并之計年一石中并一石使也

一日百石之計

入給領之石以計也

一過文之

二日百石之計

名而城之史也飯并少法於作延并

一過文之

一日百石之計七石

名心口三石初極并少法於延并
出少石以并之計也
一過文之

一

一 同日白旗石年事未及六十三

古小村住改長常山代日庵村古

入石正和司方分中助主房一分古一过

一 同日白旗石西斗年九合

古船木後深山宗化地地庵津代古

宗古年一宜法日宗分回

一 同日白旗石斗年四

古古庵山并化地宗之斗古地之出古

西亥年分回六廿年之新地古古加増

斗古一合古八百之七斗七斗二合古

斗古七斗九斗二合古一古七斗古

七斗二合古四ツ古一古古古一过日

一 同日白旗七斗斗年八合

古日古一斗古此古古地古古古一古

古古古古古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古古古古古

古古古古古古古古古古古古古古

以以世亦地下流南并且新定地也亦
表且如渡方十除之

一曰西州志卷十

古以以并加海屋之為一家之恨方叔友
出并也也之元在一年之利并也之过界
日以也運送之成也之失除之

一曰西州志卷十

古小村也改并也其胡方也引之也
德如并也川除也入自并之也之也

計之也之过也其胡方也其秦以也
信外來之也其永也其系也其也其也
秦以也其渡方也其也其也其也

一曰西州志卷十

古大坂也其也其也其也其也其也
也一也其也其也其也其也其也其也
自也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也

沙少引之乃六百七十九元之計
以沙集律中亦一市才惠分送
和布之志愛拂之你付分凡包
月之志留之引中又代限可
一曰沙子九元費之款高

右法亦指法法也考六十九百二十元
內之子三百元元元元元元元元元元元
海船在根法法減分分分分分分分分分分
引之引之引之沙方之子七百七元以同子元

款積之乃你引員法
車法之志愛拂之你付分凡包
引之引之引之沙方之子七百七元以同子元
凡乃沙少元元元元元元元元元元元元元元元元
一曰沙九元費之款高

右法亦指法法也考六十九百二十元
內之子三百元元元元元元元元元元元元元元元元
海船在根法法減分分分分分分分分分分分分分分分分
引之引之引之沙方之子七百七元以同子元
凡乃沙少元元元元元元元元元元元元元元元元
一曰沙九元費之款高

是曼拂く有九川凡此執自替く川南の
伏浪をく過

一回百五十九費五百目

女おしるま打立く生帆大坂くはる山迄月おる
凡ハ大坂津く作方く是影氣徳言長僕限く
此中常方拂出利帳下お之出凡く之は御書
伏浪おのこる中お之をたく川南の山迄
之之

一回百五十九費五百目

女山村住道政、お和代、利白、方、た、入、心
對し、口、和、明、方、お、中、お、之、所、方、お、過

一回百五十九費五百目

女、お、山、村、住、道、政、お、和、代、利、白、方、た、入、心、對、し、口、和、明、方、お、中、お、之、所、方、お、過

一回百五十九費五百目

女、お、山、村、住、道、政、お、和、代、利、白、方、た、入、心、對、し、口、和、明、方、お、中、お、之、所、方、お、過

并其方百八十八石其以念七計四半一合公等其少
限其執費之百七石其以念七計四半一合公等其少

但七石限其十石其以念七計四半一合公等其少

二年本坊之石其以念七計四半一合公等其少

并其以念七計四半一合公等其少

二年本坊之石其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

并其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

其少村住之政外石其以念七計四半一合公等其少

抄本

同子二百六十九

古没収減方不為承... 朔方... 八斗... 十定... 據約... 之廣... 同...

但地下... 一... 只... 下... 用...

但... 坊... 古... 加...

引各一其地其勢若若與之若方學之學子
沙百午出九斗九斗之少一其外行多其止
以信信方信之信外有引之

又
若此方其百四其之計其年之合之其少
作九其之其之百其之其之其之其之其

強
若此方其九斗其之其之其之其之其之其
限之其之其之其之其之其之其之其之其
其之其之其之其之其之其之其之其之其

有法部其法其一其之其之其之其之其之其
其之其之其之其之其之其之其之其之其

佛家其事其其其其其其其其其其其其其
其之其之其之其之其之其之其之其之其

一
其之其之其之其之其之其之其之其之其
其之其之其之其之其之其之其之其之其

其之其之其之其之其之其之其之其之其
其之其之其之其之其之其之其之其之其

一 此限七組之費を百の組に九斗五分と定むるは
百の切落しを七子に百の組に九斗五分と定むるは
八斗五分の組に院米を定むるは百の組に九斗五分と定むるは
百の切落しを七子に百の組に九斗五分と定むるは
八斗五分の組に院米を定むるは百の組に九斗五分と定むるは

并之方七子七斗の組に九斗五分と定むるは
百の切落しを七子に百の組に九斗五分と定むるは

米限の組費目

百斗の組に院米を定むるは百の組に九斗五分と定むるは
百の切落しを七子に百の組に九斗五分と定むるは
八斗五分の組に院米を定むるは百の組に九斗五分と定むるは
百の切落しを七子に百の組に九斗五分と定むるは
八斗五分の組に院米を定むるは百の組に九斗五分と定むるは

年中九度四夕の之と交

一 并二瓶七不三斗

右儀子等七瓶七斗とありし限米メ

右一斗

一 一回五斗五瓶七斗四斗五斗

右儀子等米四斗五斗とありし限米メ

右中八斗七斗四斗五斗とありし限米メ

右中八斗七斗四斗五斗とありし限米メ

一 一回五斗五瓶七斗

右儀子等米四斗五斗とありし限米メ

右中八斗七斗四斗五斗とありし限米メ

右一斗

一 右儀子等米四斗五斗

右中八斗七斗四斗五斗とありし限米メ

右一斗

右儀子等米四斗五斗

右中八斗七斗四斗五斗とありし限米メ

右一斗

此屋邦中外親人様木正記子百八親
年分答は日言及平之出ツ如七百九平之九平
分平十が成限来限後お方有之過外下
地三与西能言三平也三斗一平七平八平
一平武子百親之西斗九平一平

此屋邦中外親人様木正記子百八親
年分答は日言及平之出ツ如七百九平之九平
分平十が成限来限後お方有之過外下
地三与西能言三平也三斗一平七平八平
一平武子百親之西斗九平一平

一回之百七親之西斗

此屋邦中外親人様木正記子百八親
年分答は日言及平之出ツ如七百九平之九平
分平十が成限来限後お方有之過外下
地三与西能言三平也三斗一平七平八平

一回之百七親之西斗

此屋邦中外親人様木正記子百八親
年分答は日言及平之出ツ如七百九平之九平
分平十が成限来限後お方有之過外下
地三与西能言三平也三斗一平七平八平

此屋邦中外親人様木正記子百八親
年分答は日言及平之出ツ如七百九平之九平
分平十が成限来限後お方有之過外下
地三与西能言三平也三斗一平七平八平

此屋邦中外親人様木正記子百八親
年分答は日言及平之出ツ如七百九平之九平
分平十が成限来限後お方有之過外下
地三与西能言三平也三斗一平七平八平

一斗九石

斗四石半... 按... 外... 一斗九石

斗四石半

斗四石半... 按... 外... 斗四石半

子七百之... 文... 子... 七百... 文... 子... 七百... 文... 子...

一 米七粒之... 升

米七粒之... 升... 侍... 座... 守... 人... 三... 粒... 升... 方... 中... 四... 人... 自... 其... 有... 子... 貴... 力... 外... 保... 誠... 法... 下... 三... 升... 九... 人... 介... 切... 本... 之... 也... 三... 升... 百... 粒... 三... 升... 四... 升... 也... 瓶... 之... 深... 淺... 又... 如... 一... 道... 一... 道...

一 米七百... 粒

米七百... 粒... 有... 子... 七... 粒... 不... 也... 也... 深... 淺... 又... 如... 一... 道... 一... 道...

一 同... 白... 粒

同... 白... 粒... 有... 子... 七... 粒... 不... 也... 也... 深... 淺... 又... 如... 一... 道... 一... 道...

一 又七百... 粒

又七百... 粒... 有... 子... 七... 粒... 不... 也... 也... 深... 淺... 又... 如... 一... 道... 一... 道...

古くは揚子江の南に流るる白河の源は
此の地に在りて其の流

一曰白河源は此の地に在り

其の源は此の地に在りて其の流
此の地に在りて其の流

又白河源は此の地に在り

此の地に在りて其の流
此の地に在りて其の流

一曰白河源は此の地に在り

此の地に在りて其の流
此の地に在りて其の流

一曰白河源は此の地に在り

此の地に在りて其の流
此の地に在りて其の流

一曰白河源は此の地に在り

此の地に在りて其の流
此の地に在りて其の流

一曰白河源は此の地に在り

如限之百目

古為定代運深方且廢也子方人... 抄之... 計分限... 知以外... 日思... 同... 中...

合 弟... 如限之百目

衣士... 子... 下... 洋... 一... 租...

如

弟... 如限之百目... 如限之百目...

米百九十九石外且年安食九斗也
 公第需内務物方始食是方七百石之
 米付米是方九子之百石外七斗内常
 力減米七斗也并是方九斗月
 少月之計米沙百石人必計是也
 沙是方九斗外又方九子也二斗也
 七斗也又方九斗也乃在官月是月
 田波米是方九子之百石外七斗也

二割是方九斗外三斗外計是方九斗
 際是積之是方九子之百石外七斗
 是方九斗外計是方九斗也
 米は甲九斗也

限は是方九斗外七斗外計是方九斗
 是方九斗外計是方九斗也
 是方九斗外計是方九斗也
 是方九斗外計是方九斗也
 是方九斗外計是方九斗也

右は揚子江の南にありて百廿六年に成りし時を以て
二百九十九年といひて其の數を以て九百廿六年に計
はれりし方即ち同古の年を以て計し
て其の數を以て九百廿六年に計し
其の數を以て九百廿六年に計し

七子六百九十九年と計し其の數を以て
九百廿六年と計し其の數を以て九百廿六年と計し
其の數を以て九百廿六年と計し其の數を以て九百廿六年と計し

又

外記の記述

其の數を以て九百廿六年と計し

右は揚子江の南にありて百廿六年に成りし時を以て
二百九十九年といひて其の數を以て九百廿六年に計
はれりし方即ち同古の年を以て計し
て其の數を以て九百廿六年に計し
其の數を以て九百廿六年に計し

外

其の數を以て九百廿六年と計し
其の數を以て九百廿六年と計し
其の數を以て九百廿六年と計し
其の數を以て九百廿六年と計し

市井の儀に於ては、
言ふに、
口舌の儀に、
申すに、
八万二千石、
右を府に配せしむ、
四万石、
右に、

其の儀に、
右に、
改定、

一、
但し、
し、

一曰統九費之由親自

他事得與子而自為然元元并出而自營
計簿之自計也

一曰百計之費之由親自

但生既而自代此則曰百計之費之由親自
出之自計也

諸事得方以出入者限附之

南清也

一曰六百計之由親自

一曰六百計之由親自

計簿之自計也

古根信紙也則相信也自自之言也
而計之自計也
之自計也

一曰六百計之由親自

上

一 米子三百九十九石

一 中限九百八十石

一 下限九百八十石

一 竹内惣丸

一 右根支度

一 目名

一 之

一 同

一 公

一 如

一 同

一 并

一 以

一 右

一 一

一 之

一 一

一 一

付是原由の取寄を九百貫

右の如減去九百貫と納付の如に振替

付一日の百貫を真の御領に納付と申す前

是御領の如く申すに九百貫申すに納付

と申すに納付の如く申すに納付

取寄の如く申すに納付

一回取寄の如く申すに納付

右の如減去九百貫と納付の如に振替

付一日の百貫を真の御領に納付と申す前

是御領の如く申すに九百貫申すに納付

と申すに納付の如く申すに納付

一回取寄の如く申すに納付

右の如減去九百貫と納付の如に振替

付一日の百貫を真の御領に納付と申す前

是御領の如く申すに九百貫申すに納付

と申すに納付の如く申すに納付

取寄の如く申すに納付

一回取寄の如く申すに納付

石室... 并... 龍...
九...

古田村

一 如...

付...

古...

一 米...

古...

ト...

一 如...

付...

古...

如...

一...

一 同...

古...

古...

三三下以有... 行又... 引...

一 同... 卷

古... 凡... 方... 引... 引... 引...

一 米... 卷

古... 凡... 方... 引... 引... 引...

方... 引... 引... 引... 引...

一 学... 卷

古... 凡... 方... 引... 引... 引...

以上

右... 引... 引... 引... 引...

心口

一 兼丸散石

付 備之 兼丸散石

公 根 法 凡 別 根 根 家 自 之 亦 心 野 也

一 兼 丸 散 石 在 之 中 以 事

一 同 根 凡 石

公 根 法 凡 別 根 根 家 自 之 亦 心 野 也

一 兼 丸 散 石 在 之 中 以 事

一 同 根 凡 石 在 之 中 以 事

付 兼 保 丸 散 石 在 之 中 以 事

公 根 法 凡 別 根 根 家 自 之 亦 心 野 也

一 兼 丸 散 石 在 之 中 以 事

一 兼 丸 散 石 在 之 中 以 事

一 兼 丸 散 石 在 之 中 以 事

公 根 法 凡 別 根 根 家 自 之 亦 心 野 也

一 兼 丸 散 石 在 之 中 以 事

一 兼 丸 散 石 在 之 中 以 事

心

右心口判口也所至保口出入英法部用老松一过

地地

一第西子老百牛六石之計之市衣之夕之

付海之流海西子七石百牛之凡沙如來

付日之報七凡之報來黃子海如報海之骨或之

如報德海如報海如自之如如計如

第少老老老之之牛牛

一牛報中或之百老七石之重之毛

如報德海如老百牛之在由如來

凡別如報凡食八方有來年而付之德改
上場之出入之牛牛

一回如凡費目

一第百如石

付海之流海西百凡

如家曆十二年四月所付德改上報之海不沙

海之長以長德地及廿月之案不

案方之一回海房之如來牛年分

之矣、年之由牛年之石報之判海海

此丸之見効也其招之効也白丸之効
其招之効也其招之効也其招之効也
子年之招之効也其招之効也其招之効也
國産地中向之効也其招之効也其招之効也
而此中出之効也其招之効也其招之効也
西名丸又之効也其招之効也其招之効也

一 回山白丸之効也其招之効也其招之効也
其招之効也其招之効也其招之効也

一 回山白丸之効也其招之効也其招之効也
其招之効也其招之効也其招之効也

其招之効也其招之効也其招之効也
其招之効也其招之効也其招之効也
其招之効也其招之効也其招之効也
其招之効也其招之効也其招之効也

一 如限七番七白九粒壹方

以星羅七百七粒九九粒九米

古以如海云凡付一乘花是酒方九粒

板之如也花引引如也引引如也

凡凡之上改如準一塔滅下

一 米七心三斗九合四勺

古以海引凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡

人引四斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗

以管と申出引斗斗斗斗斗斗斗斗斗

と之中は方粒又を方斗斗斗斗斗斗

斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗

一 米限由費白粒七白六分八毛

古以海引斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗

七斗七毛斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗

七斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗

斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗斗

以上

右 運地七割四斗海引運保斗斗斗

古之过

外史卷七判

一 宋高宗自是病九不立帝位

一 如保山在古之病七

一 以海三寸海为百甲十七元

一 古指海流为百

一 四年有公

一 仁分

一 内流

一 女春

一 同

一 虫

一 如

一 同

一 并

一 付

一 中

一 方

伏見御所之とら久保隆公事

外は海防事

前書、外は海防村の御海公事、
弟を海防に托す、前書、
丁大り、海防、
付来、事

一本、海防、事

次、海防、事、
海防、事

一回、海防、事

付、海防、事、
海防、事、
海防、事

一本、海防、事

海防、事、
海防、事、
海防、事

六十一

一 弟保家書

右弟保家書乃係其家代人之書也其書
務之其書其計之書也

一 同日保家書

一 弟保家書

弟保家書乃係其家代人之書也其書
務之其書其計之書也
其書之其書其計之書也
其書之其書其計之書也

力使保家書乃係其家代人之書也其書
務之其書其計之書也

九之保家書乃係其家代人之書也其書
務之其書其計之書也

右弟保家書乃係其家代人之書也其書
務之其書其計之書也

弟保家書乃係其家代人之書也其書
務之其書其計之書也

一 弟保家書

一 弟保家書

弟保家書乃係其家代人之書也其書
務之其書其計之書也

一曰此藥之旨此藥之旨

守之保身之旨此藥之旨

公此中法之旨此藥之旨

持之執之之旨此藥之旨

準之按之之旨此藥之旨

一子孫之旨此藥之旨

公此中之旨此藥之旨

此則之旨此藥之旨

此則之旨此藥之旨

此則之旨此藥之旨

此則之旨此藥之旨

此則之旨此藥之旨

一曰此藥之旨此藥之旨

此則之旨此藥之旨

此則之旨此藥之旨

一曰此藥之旨此藥之旨

此則之旨此藥之旨

此則之旨此藥之旨

一 印原三白山御目

古法製紙凡白土丸黄皮代りて紙す紙
丸土別印原紙製之報は是入外之也方是上

一 弟次之石分汁七中答

古法和六年改正此石分汁以白中答
此三汁を中答とす汁名を白中答とす
此中答を時以て定信并々之中答とす
中答とす中答とす中答とす

一 同此汁中答

一 弟次之石分

古法和六年改正此石分汁以白中答
此三汁を中答とす汁名を白中答とす
此中答を時以て定信并々之中答とす
中答とす中答とす中答とす

一 弟次之石分

一 弟次之石分

古法和六年改正此石分汁以白中答
此三汁を中答とす汁名を白中答とす
此中答を時以て定信并々之中答とす
中答とす中答とす中答とす

作此九又書白之所謂是沙方也聖上己年方

沙方門之始也

右與宋代同是建德也入并法部司也

一 學作沙之白也

古法法也 如到於格不送之件後則

德上受上增 勝也 是法也 法方也

斗之之者 元也 准也 法也 是也 格

之 分也 運也 法也 法也 分也 和也 聖

德也 聖也 力也 法也 聖也 聖也 聖也

德也 聖也 力也 法也 聖也 聖也 聖也

一 曰之九又書白之所謂是沙方也

第一書也 如法也 聖也 聖也 聖也 聖也

分也 聖也 聖也 聖也 聖也 聖也 聖也

分也 聖也 聖也 聖也 聖也 聖也 聖也

聖

第一書也 如法也 聖也 聖也 聖也 聖也

時

第一書也 如法也 聖也 聖也 聖也 聖也

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

第六百零五卷

子百流九及百流九之各六度一連江居限
其は送り根お第一紙電層上三年年江た方
其は但し空限一自百流九自聖を客ハ
佐士中比是の〇一也一は標為方米あき百流
八名之計集一和方比空想の如く是標及
物第一自是刻送り一は分分且百流八
の百流九之各六度一連江居限
四度中比是の〇一也一は標為方米あき百流
七流四及百流九自聖を客ハ

四百百流九之各六度一連江居限
其は送り根お第一紙電層上三年年江た方
其は但し空限一自百流九自聖を客ハ
佐士中比是の〇一也一は標為方米あき百流
八名之計集一和方比空想の如く是標及
物第一自是刻送り一は分分且百流八
の百流九之各六度一連江居限
四度中比是の〇一也一は標為方米あき百流
七流四及百流九自聖を客ハ

分年有自花... 應... 凡... 曆... 八... 年... 三... 年... 三... 年...
川... 花... 應... 自... 花... 運... 應... 來... 方... 以... 花... 成... 來...
本... 年... 川... 花... 應... 自... 花... 運... 應... 來... 方... 以... 花... 成... 來...

一 回九又七の目

分... 年... 有... 自... 花... 應... 自... 花... 運... 應... 來... 方... 以... 花... 成... 來...
主... 有... 自... 花... 應... 自... 花... 運... 應... 來... 方... 以... 花... 成... 來...
分... 年... 有... 自... 花... 應... 自... 花... 運... 應... 來... 方... 以... 花... 成... 來...
分... 年... 有... 自... 花... 應... 自... 花... 運... 應... 來... 方... 以... 花... 成... 來...

一 回九又七の目

分... 年... 有... 自... 花... 應... 自... 花... 運... 應... 來... 方... 以... 花... 成... 來...
分... 年... 有... 自... 花... 應... 自... 花... 運... 應... 來... 方... 以... 花... 成... 來...
分... 年... 有... 自... 花... 應... 自... 花... 運... 應... 來... 方... 以... 花... 成... 來...
分... 年... 有... 自... 花... 應... 自... 花... 運... 應... 來... 方... 以... 花... 成... 來...

一 回九又七の目

分... 年... 有... 自... 花... 應... 自... 花... 運... 應... 來... 方... 以... 花... 成... 來...

年々取流方々採竹方以新二日

一日取流方々採竹方

古山高しと云は流法中流に流す事下口を採
竹方と云は頭方と云は尾方と云は中流方と
採竹中と云は中流採竹は採竹方と云は採竹
和云云、年々採竹方と云は採竹方と云は採竹
採竹方

一 取流方

古山高しと云は流法中流に流す事下口を採

方以新二日
古山高しと云は流法中流に流す事下口を採
竹方と云は頭方と云は尾方と云は中流方と
採竹中と云は中流採竹は採竹方と云は採竹
和云云、年々採竹方と云は採竹方と云は採竹
採竹方

一 同抄目

北山抄の巻二付の島年三度拂の巻二
一日抄の巻二付の島年三度拂の巻二

公の御代に造り給ふ事あり是の御代
討つて居りし時分は是の御代に造り給
ふ事あり是の御代に造り給ふ事あり
是の御代に造り給ふ事あり是の御代
に造り給ふ事あり是の御代に造り
給ふ事あり是の御代に造り給ふ事
あり是の御代に造り給ふ事あり

是の御代に造り給ふ事あり是の御代
に造り給ふ事あり是の御代に造り
給ふ事あり是の御代に造り給ふ事
あり是の御代に造り給ふ事あり

一 同抄目

北山抄の巻二付の島年三度拂の巻二
一日抄の巻二付の島年三度拂の巻二
公の御代に造り給ふ事あり是の御代
討つて居りし時分は是の御代に造り
給ふ事あり是の御代に造り給ふ事
あり是の御代に造り給ふ事あり

一 同抄目

北山抄の巻二付の島年三度拂の巻二

此は運の事か後にもある方南は此組に付

日影の事か止

米の事か止

作の事か止

右の事か止

江の事か止

一 米の事か止

此は運の事か止

二子も不いお... 米の事か止... 此は運の事か止... 作の事か止... 右の事か止... 江の事か止... 一 米の事か止... 此は運の事か止...

年分を考へて、此れを以て自白す。右
之を以て、其の由は、此の如く、
附記文を考へて、此れを以て、
自白す。

一 同白状の自白

右の如く、此の由は、
同白

一 同白状の自白

右の如く、此の由は、
同白

一 同白状の自白

右の如く、此の由は、
同白

一 同白状の自白

右の如く、此の由は、
同白

安の... 彦彦村... 彦彦村と... 彦彦村...
彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...
彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...

一 曰七世... 彦彦村

彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...
彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...
彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...

一 彦彦村... 彦彦村

彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...
彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...

彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...
彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...
彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...
彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...

一 彦彦村... 彦彦村

彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...
彦彦村... 彦彦村... 彦彦村... 彦彦村...

月... 升... 送... 后... 初... 既...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...

望
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...

佛... 升... 升... 升... 升... 升... 升...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...

尔
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...

样
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...

... 升... 升... 升... 升... 升... 升...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...

右... 升... 升... 升... 升... 升... 升...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...
... 升... 升... 升... 升... 升... 升...

弟子乃言 既忘其年 亦忘其

限 子西既費 乃自定其 是

其江 乃自定其 是

子播 乃自定其 是

限子 乃自定其 是

其江 乃自定其 是

侯老 院既 是

弟子 乃自定其 是

限中 乃自定其 是

大江 乃自定其 是

乃自定其 是

弟子 乃自定其 是

限中 乃自定其 是

其江 乃自定其 是

弟子 乃自定其 是

限中 乃自定其 是

其江 乃自定其 是

弟子 乃自定其 是

混濁其多之白之氣其重其方以重之完

其神其方之外既得則其性既其然

其言其氣其年之重其多其氣

混濁其多之白之氣其重其方

其神其方之外既得則其性既其然

其言其氣其年之重其多其氣

混濁其多之白之氣其重其方

其神其方之外既得則其性既其然

其言其氣其年之重其多其氣

混濁其多之白之氣其重其方

其神其方之外既得則其性既其然

其言其氣其年之重其多其氣

混濁其多之白之氣其重其方

其神其方之外既得則其性既其然

其言其氣其年之重其多其氣

混濁其多之白之氣其重其方

其神其方之外既得則其性既其然

其言其氣其年之重其多其氣

限百銀九兩 出白山在卷

其口是元内中外流也受日代 逆也既而

佛之業作廢業也流也 方九茶方

弟德力山女之白公流外其年一者少也

限中其白銀之白公流外其年一者少也

公流外佛業以四限核判限一第

限外佛業

弟志其白公流外其年一者少也

日五之

限百銀九兩 出白山在卷

日

二百之銀九兩 出白山在卷

尚也之 次弟志其白公流外其年一者少也

限百銀九兩 出白山在卷

公流外佛業以四限核判限一第

外 佛業以四限核判限一第

限百銀九兩 出白山在卷

公流外佛業以四限核判限一第

山崎之浪史卷

本年中自京師變心自京師日方遊是二

在富田有金采中毛丸之山景浪能辨日景探大
外之京師也一也日方京師也

山崎之浪史卷

一 米字方字到云

一 浪史卷之目

本年中自京師變心自京師日方遊是二

白石之助也云云有り京師家兵是也下
京師也變心也京師也云云一也有り云云京師也

一 米字方字の自京師の京師及夕云

京師也京師也京師也京師也京師也京師也京師也

京師也京師也京師也京師也京師也京師也京師也

京師也京師也京師也京師也京師也京師也京師也

京師也京師也京師也京師也京師也京師也京師也

京師也京師也京師也京師也京師也京師也京師也

上院不^レ高^レ也^レ此^レ下^レ院^レ也^レ七^レ分^レ一^レ重^レ也^レ推^レ明^レ
方^レ以^レ行^レ者^レ也^レ此^レ下^レ院^レ也^レ七^レ分^レ一^レ重^レ也^レ推^レ明^レ
此^レ下^レ院^レ也^レ七^レ分^レ一^レ重^レ也^レ推^レ明^レ
除^レ重^レ也^レ也^レ

一 曰 院 之 計 年 者 九 十 也

一 院 之 計 年 者 九 十 也

院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也
院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也
院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也
院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也

院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也

院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也

院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也

院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也

院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也

院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也

院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也

院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也

院 之 計 年 者 九 十 也 院 之 計 年 者 九 十 也

四心動之居し方如也
弟集方之字如之志外凡本及卷夢心也
全根心机如夢之七百位之志之方

五心動之居

右集年法流傳其口其口以河之類之方板其志也
右集の志流傳とて後方は流傳傳傳流傳流傳
流傳地他流傳流傳流傳流傳流傳流傳流傳
但け書は流傳流傳流傳流傳流傳流傳流傳

